

家計調査

～ミクロの消費指標～

竹 光 大 士

家計調査とは

今回から新たに実体経済の流れを把握するため、経済指標を取り上げ、「指標観測」として連載したい。まず、消費税増税の影響をみるため、消費関連指標を取り上げることとし、第1回目は個人消費の代表的な統計の1つである「家計調査」の概要と動向を紹介する。

家計調査は収入・支出についてサンプリングした9,000世帯を調査し、その内訳を明らかにするものである。結果は単身世帯、全世帯(単身世帯を除く2人以上の世帯)、総世帯(単身世帯と2人以上の世帯を合わせた合計)ごとに公表される。

消費税増税の駆け込み需要と反動減

家計消費の消費税増税前の駆け込みと増税後の消費の反動減を確認したい。14年3月の全世帯の実質消費支出^{注1}は前年比7.2%と大幅増となったが、4月は同▲4.6%と反動減が出た。このうち、4月の実質消費支出では、「住居」と「教育」を除く大費目が前年比で減少した。ちなみに、前回増税時の1997年3月分は同5.8%、

4月は同▲1.1%だった。

このように今回は前回よりも増税前後の振れが大きい。内容的にも増税前の3月に増加率が大きかった項目は4月の減少率も大きいことが特徴として挙げられる。それに対し、前回増税前の3月に増加率が大きかった項目は今回ほど4月の減少率が大きくはない(図表1)。

13年度の消費の特徴として、室内装備・装飾品、家庭用耐久財、寝具類等の消費が増加したことが挙げられる。これらの項目は駆け込み需要、反動減が起きた項目ともほぼ一致しており、上述の耐久消費財の需要が増税によって前倒しされた可能性がある。他にも駆け込み需要、反動減が今回の方が前回より大きかった背景には株高等による資産効果の存在や、今回の増税幅が3%と前回の2%より大きかったことなども影響していると考えられる。

^{注1}97年分は農家世帯除く、14年分は農家世帯含む。

図表1 消費税増税のインパクトの比較 (単位: %)

2014年3月						2014年4月					
増加率が大きかった項目						減少率が大きかった項目					
対前年比増減率			ウェイト			対前年比増減率			ウェイト		
家庭用耐久財	-	162.2	-	2.1	-	1.3	和服	-	▲ 43.2	-	0.0
寝具類	-	134.9	-	0.4	-	0.3	室内装備・装飾品	-	▲ 33.5	-	▲ 0.1
教養娯楽耐久財	-	100.0	-	1.3	-	0.7	寝具類	-	▲ 28.1	-	▲ 0.1
室内装備・装飾品	-	80.9	-	0.3	-	0.2	他の光熱	-	▲ 27.1	-	▲ 0.2
1997年3月						1997年4月					
増加率が大きかった項目						減少率が大きかった項目					
対前年比増減率			ウェイト			対前年比増減率			ウェイト		
家庭用耐久財	-	86.7	-	1.8	-	0.9	他の光熱	-	▲ 23.8	-	▲ 0.1
教養娯楽耐久財	-	73.1	-	1.5	-	0.8	酒類	-	▲ 15.1	-	▲ 0.2
設備・修繕維持	-	24.0	-	2.6	-	0.5	補習教育	-	▲ 13.6	-	▲ 0.2
履物類	-	22.5	-	0.7	-	0.1	生地・糸類	-	▲ 11.6	-	▲ 0.0

(資料:総務省統計局 注:2人以上の世帯)